［道　徳］

生き方の自覚を深め、よりよい生き方を目指す道徳の時間のプログラム構成と実践

－道徳教育・キャリア教育の連携からのアプローチ－

田原　早苗*

1　はじめに

⑴　問題の所在

小学校学習指導要領「道徳」では，「自己の生き方についての考えを深める」ことを，目指す子どもの姿として求めている。また，特別活動の目標では，「自己の生き方についての自覚を深め，自己を生かす能力を養う」と述べられている。これらに象徴されるように，新学習指導要領では，教育の目的である「人格の完成」を目指すための「生き方の自覚」を深める教育活動が求められている。

現任校の６年生は，全校のリーダーとしての役割を果たしたいとする意識を強くもっている。また，今の自分をさらによくしていきたいという意欲も強い。そんな子どもたちに，よりよく生きるための教育活動をどう提示していくべきなのか。生き方の自覚を深め，よりよく生きるための教育活動はどうあるべきなのか。

⑵　「よりよい生き方」を目指すための「生き方の自覚」の必要性

まず，先行研究を検討しながら，求められる方向性を明らかにする。

①　道徳教育の視点から

前述したように，道徳教育の中で「生き方」について考えることが明示されている。また，道徳の時間における目的である「道徳的実践力」は，「人間としてよりよく生きていく力であり，一人一人の児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め，将来出会うであろう様々な場面，状況においても，道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し，実践することができる内面的資質」（小学校学習指導要領「道徳」による）と定義付けられている。つまり「よりよく生きる」ためには「道徳的価値の自覚」と「生き方の自覚」が不可欠といえる。

②　キャリア教育の視点から

「生き方」を考えるもう一つの視座として，キャリア教育があげられよう。キャリア教育について，三村（2004）は次のように述べる。「キャリアとは，生涯にわたって果たす様々な立場や役割のこと。それらを自分の中で価値付け，それを積み重ねていくことで，現在や将来の生き方を考え，行動できるように支援する」教育である。

キャリア教育もまさに，よりよい生き方を目指す生き方を考える教育なのである。

③　両者の協同の視点から

林，白木（2010）の両者は，「人間としての在り方，生き方を通して，キャリア教育と道徳教育をつなぐ」という考えの基に，次の主張を行う。林は，道徳教育の立場から，道徳教育が価値の伝達のみの教育になってはいないかと省察した上で，「内容を教えることが中心になっている道徳教育だけでは，在り方，生き方を教えるのには足りない」と，キャリア教育の必要性を主張している。

白木（2010）は，「キャリア発達は，ガイダンス機能の充実を受けて，特別活動のみならず，他領域との学習から得た力が統合し，スパイラルしながら促進されるものであると考える。そこで，児童生徒の行為の原動力となる価値観の形成については，特に「道徳の時間」が有効である。」と主張している。

しかし，両者ともに，それらを可能とするプログラムは，これからの実践によると結んでいる。

④　道徳教育とキャリア教育のコラボレーション

「道徳教育とキャリア教育をつなぐ」という考えは，三村（2006）が，すでに提唱し，その著書の中でいくつかの実践例を提示している。道徳教育とキャリア教育を結びつけるための媒体として，特別活動，総合的な学習の時間，心の

＊十日町市立浦田小学校

ノート等を取り入れ，意欲的な実践が行われている。

千葉（2006）は，道徳教育を学校教育全体を通じて行うためには，道徳の時間を中心とした総合単元的な道徳学習が必要であるとし，さらに，キャリア教育の視点を盛り込みながら道徳教育を展開している。

また，赤坂（2006）は，特別活動と道徳教育，キャリア教育のつながりを考え，４能力領域の中の「人間関係形成能力」「将来設計能力」に焦点を当てた実践を展開している。

さらに谷内口（2006）は，道徳教育，キャリア教育の両者において様々な体験活動との関連の重要性を説く。その上で，体験活動を児童にとって意味あるものにするために，振り返りや表現の場を，「心のノート」に求めている。

これらの先行研究から，本実践に求められる方向が見えてくる。

まず，３つの実践は，キャリア教育と道徳教育をつなぐことによって深まる道徳的価値の自覚が，よりよい生き方を目指す子どもの育成につながるという大きな示唆を与えている。

筆者は，さらに道徳的価値の自覚に力点を置いた道徳の時間を含む教育活動のプログラムの必要性を感じる。深い道徳的自覚を経てこそ，自らの生き方を考えるための価値の創造に結びつくからである。言い換えれば，深い道徳的価値の自覚なくしては，よりよい生き方を目指せないと考えるのである。それでは，よりよい生き方を目指す価値観形成の場としての道徳の時間は，実際の教育活動としてどのようなものでなければならないのか。それが，本研究で取り組むべき課題の一部である。

さらに，３つの実践から，道徳教育とキャリア教育をつなぐ大きなポイントは「体験」であることが見えてくる。意味ある「体験」をベースにそれぞれの場や授業での学びが連続することによって，価値観の形成が図られる。

以上のことから，よりよい生き方を目指す児童の育成に，次の２点から迫ることとした。

①価値観形成のために有効な体験活動の設定。そのための道徳教育とキャリア教育の連携はどうあるべきか。

②道徳的価値の自覚を深める道徳の時間の設定。そのための道徳教育とキャリア教育の連携はどうあるべきか。

２　研究の目的

よりよい生き方を目指す子どもを育てるための道徳教育とキャリア教育との連携を図るプログラムを構成し，その効果を検証する。

３　研究の方法

⑴　よりよい生き方を考えるための道徳教育，キャリア教育，体験活動を関連させたプログラムの作成。

⑵　よりよい生き方を考えるための道徳の時間の構成。

⑶　自己効力尺度と児童の変容及び学びの様相からの検証。

４　実践の内容と検証

⑴　対象学年及び人数

第６学年　４名

⑵　よりよい生き方を考えるための道徳教育，キャリア教育，体験活動を関連させたプログラム化

①　価値観形成を図るための体験活動の構成

体験は，意図的な条件設定があって，学習としての意味をもつ。よりよい生き方を考えるための体験としての条件設定をキャリア教育の４能力領域の視点に求めた。４能力領域を視点として，総合的な学習の時間の活動構成を行うのである。

４能力領域は，キャリア発達を目指すために必要な能力として，位置づけられている能力・態度である。それらの能力と総合的な学習の時間につけたい力との両者を満たす活動を設定するのである。

このマトリクス表を作成することで，この体験にどんな意味・ねらいを持たせたいかがより明確になり，かつ，ねらいにせまるための具体的な手立てもつくり出すことができると考えた。

表１「総合的な学習の時間につけたい力」と「キャリア教育における４能力領域」マトリクス表

総合のねらい／キャリア発達にかかわる諸能力の視点				
	◎活動名　発信！夢づくり号　～浦田プロフェッショナルの道を通して～ ◎目指す子どもの姿　地域の自然や働く人と関わりながら，仕事や役割について理解し，仲間と共によりよい生き方を追究する子 ◎ねらい　働くことの意義と自分の役割との関連性に気付きながら，浦田を大切に思い，浦田や自分をよりよくしていこうとする気持ちを育てる。 【かかわる】〇働く人や地域の自然に，仲間と共に進んでかかわることができる。 【考える】　〇浦田のよさや役割を果たすことの大切さは，自分ともつながりがあることに気付くことができる。 【表現する】〇自分の知りたい情報を適切な方法で集め，整理し，分かりやすい表現方法で伝えることで，価値観をより広げることができる。 【生活に生かす】 〇ふるさと「浦田」と自分たちの力に自信をもち，浦田を大切にしよう，よりよくしていこうとすることができる。 〇仕事をする上での協力性・関係性を自分の生活に生かし，よりよい生き方につなげようとすることができる。			
	かかわる （自ら対象にかかわる）	考える　（価値観を育む）	表現する （価値観を広げる）	生かす（価値観を生かす＝よりよく行動する）
人間関係形成能力 自他理解 ・対象を知る コミュニケーション ・かかわる	対象を知るために，どのようにかかわるか	対象とのかかわりから，何に気付くか	気付いたことをどのように伝え合うか	かかわり，伝え合いから，自分はどのように行動するか。
	・地域の仕事をする人々の仕事を体験したり，お話を聞いたりする。（ようこそ先輩） ・地域の自然を知るために，土壌生物調査をおこなう。	・働く人々の一生懸命さに気付く。 ・浦田の自然の豊かさに気付く。 ・自分と浦田の自然のかかわりの深さについて考える。	・「土壌生物調査」や「ようこそ先輩」の活動に対する自分の気付きを，友だちとわかりやすく伝えあう。	・地域の野菜作りや野菜に対する見方が変わり，「浦田の野菜」を多くの人に知ってもらいたいと考える。
	（評価規準）・対象（地域の自然・働く人・職業）にすすんでかかわり，働くことの浦田の野菜作りにかかわる人々の「一生懸命働くこと」に気付くことができる。 ・考えを進んで発表し，他の考えと比べながら，自分の考え浦田の自然や働くことへの理解を深めることができる。			

② 総合・キャリア教育・道徳教育の関連図の作成

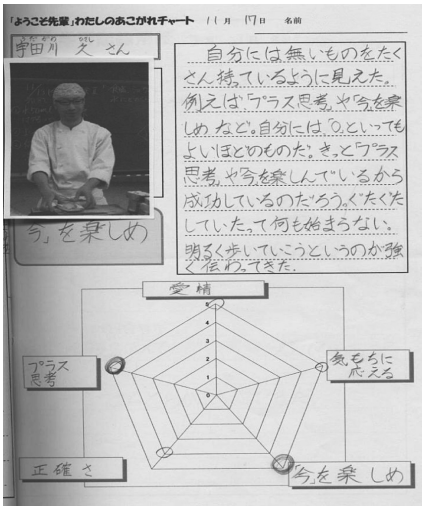
マトリクス表から考えられた総合的な学習の時間の活動をさらに，道徳的価値観，キャリア教育の視点の両視点を満たす活動に練り上げていく。総合的な学習の時間，道徳教育，キャリア教育を関連させることにより，「生き方の自覚」につながるための価値観を「体験」と「道徳の時間」にスパイラル的に意識するための手立てとなる。

表２　総合・キャリア教育・道徳教育の関連図

	道徳的価値	総合的な学習の時間	キャリア教育の視点
4月 5月～12月 1月	１－(6) 自分の特徴を知って，悪いところを改め，よいところを積極的に伸ばす。 ４－(3) 身近な集団に進んで参加し，自分の役割を自覚し，協力して主体的に責任を果たす。 ４－(4) 働くことの意義を理解し，社会に奉仕する喜びを知って公共のために役立つことをする。 １－(2) より高い目標を立て，希望と勇気をもって，くじけないで努力する。	〇夢マップを創ろう ・世の中の仕事について調べる。 ・今の自分について考える。 ・自分の夢について考える。 〇「ようこそ先輩」 ・職業人から仕事内容・働くことの苦労や喜びや働くことの意義について聞く。 ・お聞きした話を個人でチャート図にまとめ，キーワード化する。 ・グループで話し合い，ポスターにまとめる。 ・全校や保護者・地域に向けて発表会を行う。 〇未来予想図を作ろう ・今までの学びを未来予想図にまとめる。 ・自分の夢を実現するために必要な力について考える。	〈人間関係形成能力〉 ・自分の長所や欠点に気付き，自分らしさを発揮する。 〈情報活用能力〉 ・自分に必要な情報を探す。 ・施設，職業見学等を通し，働くことの大切さや苦労が分かる。 ・学んだり体験したりしたことと生活や職業との関連を考える。 〈将来設計能力〉 ・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ・将来のことを考える大切さが分かる。 ・憧れとする職業をもち，今，しなければならないことを考える。 〈意思決定能力〉 ・将来の夢や希望をもち，実現を目指して努力しようとする。

＊「体験」と「生き方の自覚」につながる価値観の関連について主なつながりを矢印で示した。

図－１　個人チャート図



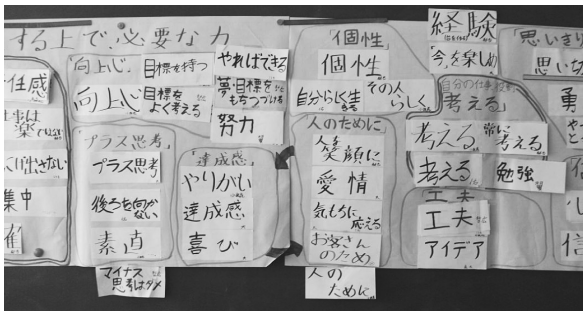
③　キャリア教育と関連させた総合的な学習の時間の実際

「ようこそ先輩」では，子どもたちの夢の職業についている方々を招いて，話を聞く活動を実施した。

あこがれの職業人からの話は，子どもたちの知的好奇心を強く刺激した。働く人々は，それぞれご自分の信念に基づいて，その仕事を極めようとしていた。その信念，つまり価値観は，惹かれる価値，身に付けたい価値として，子どもたちの価値観の学びとなっていった。

個人でのまとめ学習は，左図のチャート図（図－１）を使った。先輩の話の中で自分があこがれる先輩の姿勢や思い等をキーワード化してまとめ，それをチャート化した。チャート化することで，自分が大事にしたい価値観やこうなりたい自分像をもつことができた。

４人の先輩からの話を個人でまとめた後，クラスでの話し合い活動を設定した。個人のまとめ学習をベースに，個人で見付けたキーワードを共有化し，整理し，「仕事をするために必要なキーワード」としてまとめた。（図－２）



図－２　キーワード表

その活動においては，それぞれの価値観で選んだキーワードの必要性を熱く語る姿があった。友達の選んだキーワードとその価値観を聞くことで，新たな価値観に気付いたり，自分の価値観を改めて確認する学習となった。仕事をする上で必要な力として「責任」と「役割」の二つを選び出した。

⑶　よりよい生き方を考えるための道徳の時間の構成についての検証

①　４能力領域で構成する道徳の時間

キャリア発達を促す４能力領域を授業構成に活用することで，「よりよく生きる」ための視点を含んだ授業の充実を図ることが可能になると考え，本時で目指す子どもの姿を４能力領域の視点から設定した。

目指す子どもの姿が明確になることは，本時のねらいが明確になることである。また，それに迫るための様々な方向からの具体的な手だても，４能力領域が示す能力・態度と引き合わせて考えることで可能になる。以下に，〈人間関係形成能力〉と〈情報活用能力〉における評価規準とねらいにせまるための場面・手だてを示す。

表３　本時における評価規準と具体的な手だて

〈人間関係形成能力〉	他者の個性を尊重し，自己の個性を発揮しながら，様々な人々とコミュニケーションを図り，協力，協同して，ものごとに取り組む。
評価規準	ロール・プレイングに参加したり，友達のロール・プレイングを見て，感想をもつことができる。
場面・手だて	ロール・プレイング，シェアリングの場の設定。ワークシート。
〈情報活用能力〉	学ぶこと・働くことの意義や役割その多様性を理解し，幅広く情報を活用して，自己の進路や生き方の選択に生かす。
評価規準	自分の係の仕事の役割を認識することが，責任を果たすために必要な力であることに気付く。
場面・手だて	身近な「役割」「責任」のキーワードの意味を考えるための自作資料作成。

②　モラル・スキル・トレーニングの活用

モラル・スキル・トレーニングは，心体知で学ぶ道徳授業法である。「役割」を自由に即興的に演じる中で，その場面に適切な行動を考えたり，自分の行動の意味を考えたり，友達のロール・プレイから感じた気持ちを話し合ったりする中から，よりよい行動を選び取っていくことができる。望ましい価値の創造が，子どもたちとの話し合い，学び合いの中から形成されていくのである。形成された価値観は，自分たちでつくり出した価値観という意識が強くなり，よりよく生きるための一つの指針となってこれからの生活に生かされていく可能性が高い。

ドッジボールの試合への出場を頼まれるが，図書係としての仕事もしなければならない主人公の葛藤をロール・プレイングで演じるための自作資料として用意した。

③　道徳の授業の実際及び検証

本授業のねらいを，「自分の役割を自覚し，責任を果たすことの大切さに気付き，自分の生活に生かしていこうとする意欲をもつ」と定めた。

B児の感想後半からは，本時の核となるキーワード「役割の自覚」と「責任を果たす」を自分と引きつけて考え，本時のねらいに迫っていることが読み取れる。B児の様相は，キャリア教育の４能力領域の視点からの授業構成を試みたことにより，総合的な学習の時間で学んだ価値観が，道徳の時間に意図的に繋げられ，価値の内面化に結びついたと考える。それが，よりよく生きようとする意欲につながり，「実践しなければ意味がない。がんばってやってみます。」と表現されている。

（授業後の感想B児）「決断」ではないけれど，「はっきり」伝えること，意思表示をすることは，自分にも相手にもよいであろうと気付きました。実践しなければ意味がない…。がんばってやってみます。
　ぼくは，ドッジボールもやりたい→けど，図書の整理は今しないとみんな困ってしまう→図書係の責任を果たすべきだ。と考えました。

また，モラル・スキル・トレーニングの活用が本時における，「生き方の自覚」にどのように生かされているかについての検証として，C児の感想を挙げる。

（授業後の感想C児）　悪いことをしている相手の気持ちを考える行動というのは，最初全然考えもしなかったが，大切かもと思った。それは，じろうさん役をやってみたからだ。
　私たちは，「しっかり役割を考えた」道夫さんでした。いつも役割を考えているからこのようなロールができたんです。責任感を考えて断るのも，一しゅんの判断です。その判断をしっかりしたいです。

C児は，ロール・プレイングを行うことで，今までの自分と授業を終えての自分の価値観の違いに気付き，これからの自分を考える契機をつかんでいる。また，C児がこれまで大切にしてきた価値観「役割をしっかり考える」は，ロール・プレイングを通してさらに深く自覚されたことが分かる。

このC児の変容は，モラル・スキル・トレーニングを活用した道徳の授業を実施することによって，「生き方の自覚」を促す道徳の時間の授業構成が可能になることが伺われる。また，日々の生活で意識している各個人のキーワードが，道徳授業に結びついていることも分かる。このキーワードは，前述の「ようこそ先輩」の活動で子どもたちが一人一人の価値観で選んだものである。ここにも「よりよい生き方」を考える学びの連続性が見られる。

5　結果とその検証

～児童アンケートから見る「生き方を考える」意識の変容～

児童アンケートは，自己効力尺度をもとに，児童の実態に合った内容に組み替えたものである。４月と翌年１月に実施し，５段階評価で自己評価している。以下に４月と１月の評定が大きく変化しているものについて示す。

評価項目	４月の評価平均	１月の評価平均	上昇値
①　なりたい自分になるために何が大切かを言うことができる	2	3.5	1.5
②　どのような生き方をしてみたいか考えてみることができる	2.2	4	1.8
③　これから伸ばしていきたい自分のいいところを言うことができる	2.5	3.6	1.1
④　最初にできなくても，何回も挑戦してみようとすることができる	3.2	4.2	1.0

これらの項目は，よりよく生きるために必要な力として筆者が，自己効力尺度から選択した項目である。どの項目も平均１点以上の上昇を見せている。

さらに，児童の意識の変容の要因はどこにあるのかについて，尺度変化の要因をふり返った記録から読み取る。

〈C児の変容とその振り返り〉

〈アンケート結果〉「なりたい自分になるために何が大切かを言うことができる」評価２→評価５
「してみたい生き方をするには，どんな仕事につくとよいか考えることができる」評価１→評価５
〈振り返り〉４月には「してみたい生き方」を考えることがなかった。どうなれば理想の仕事をすることができるかを考えたとき，生き方も考えられるようになった。わたしの生きたい生き方は，「少し苦労してでも，人が喜ぶことをする」「常に上を目指す」ことです。

〈D児の変容とその振り返り〉

〈アンケート結果〉「なりたい自分になるために何が大切かを言うことができる」評価１→評価５
「最初にできなくても何回も挑戦してやってみようとすることができる」評価２→評価５
〈振り返り〉仕事をやっている中で，４月の自分は，できなかったりするとあきらめてしまうことが多かった。だけど，みんなが一生懸命やっているのを見て，あきらめずに何回も挑戦することが大事だと思った。また，４月の自分は何が自分に大切なのかわからず，困ったりあせったりした。今の自分は，どちらもあきらめずに落ち着いてできるようになったと思う。何が大切かを考え，それをすることで自分がどうなるかを少しずつ考えられるようになってきていると思う。

児童の振り返りには，「自分の生き方」を考えることになった経緯や「よりよく生きる」ことへの希望が感じられる記述が見られる。このことから，キャリア教育の視点で構成された総合的な学習の時間での学びが，よりよく生きるために有効的に作用したことが伺われる。

これらの結果から，本研究で検証目的としていた，よりよい生き方を目指す子どもを育てるための道徳教育とキャリア教育との連携を図るプログラムを提示できたと考える。それは，総合的な学習の時間で学んだ価値観が，スパイラル的に道徳の時間にも継続されていくプログラム構成といえる。また，そのプログラム構成は，価値観の深い自覚を促し，生き方を考える児童へと変容させることが分かった。

総合的な学習の時間の構成は，キャリア教育の４能力領域からなされたものであった。道徳時間の授業構成も同じ構造をとることによって，学びの連続性がもたらされた。つまり，体験によって獲得した価値観を一人一人の意識の中で自覚し，内面化する道徳の時間の必要性が提示されたと考える。

6　全体考察

⑴　成果

以上の結果を踏まえ，体験活動を基盤とした道徳教育とキャリア教育の視点から考えられた活動構成は，よりよい生き方を目指す子どもの育成に有効な一つのプログラムであり，道徳的価値の自覚を深めるための道徳の時間の構成は，よりよく生きることを考える有効な授業方法の一つである。

道徳教育，キャリア教育との融合を図る教育活動の展開の中で学んだ態度や意識を，学校生活の中で生かしていく過程で，子どもたちは，「よりよく生きる」ことへの意識を高めることができた。

⑵　今後の課題

今年度の課題としては，児童数４名の少人数での客観的な量的データの検証をどう扱っていくか，それを補うための質的データをどう解釈していくか，道徳的価値の内面化を，何を用いて測るか，等の検討があげられる。

また，意識の変容については，プログラムのどの要素が効果的に働いたのか明らかにできなかった。

人間としてどう生きるべきか。どう在るべきか。子どもたちが，自分の生き方にまっすぐに向き合う，深く大きな課題に，これからも子どもと真摯に向き合い，ともに学んでいきたい。

【引用・参考文献】

・赤坂真二　「学級活動を中心としたキャリア教育と道徳教育の連携」三村隆男編著『キャリア教育と道徳教育で学校を変える！』　実業之友社，2006年
・国立教育政策研究所生徒指導研究センター　『職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例）』2002年
・千葉　高　「小学校６年間を通したキャリア教育と道徳教育」三村隆男編著『キャリア教育と道徳教育で学校を変える！』　実業之友社，2006年
・林　泰成　白木みどり　『人間としての在り方生き方をどう教えるか』　教育出版，2010年
・三村隆男　『図解　はじめる小学校キャリア教育』　実業之友社，2004年
・三村隆男編著　『キャリア教育と道徳教育で学校を変える！』　実業之友社，2006年
・文部科学省　『小学校学習指導要領解説道徳編』　東洋館出版，2008
・谷内口まゆみ　「心のノートや異年齢集団を活用したキャリア教育と道徳教育の融合」三村隆男編著　『キャリア教育と道徳教育で学校を変える！』　実業之友社，2006年